

2005年度観光研究所活動報告

公開講座

- ・「**旅行業講座**」(計46講座)
 - 2005年5月7日(土)~7月30日(土)
 - 修了証書授与式...7月30日(土)
 - 受講生...56名(立教生51名、社会人5名)
 - 講座修了生...51名
 - 受講生の国家試験合格率
 - 総合旅行業務取扱管理者試験23%(全国平均18%)
 - 国内旅行業務取扱管理者試験54%(全国平均28%)

- ・「**ホスピタリティ・マネジメント講座**」(計34講座)
 - 2005年9月20日(火)~12月15日(木)
 - 修了証書授与式...2006年3月4日(土)
 - 受講生...59名(立教生18名、他大学生12名、社会人29名)
 - 講座修了生...46名

講座中の行事

- ・「**受講生意見交換会**」
 - 2005年10月15日(土)
 - (社会人11名、学生16名参加)
 - テーマ:「講座の感想」「社会人として大切なことは?」「今後していきたいこと」(学生)
- ・「**ホテル見学会**」
 - 2005年10月26日(水)
 - ホテル グランパシフィック メリディアンへ30名参加

公開講演会

- ・「**旅行業の現状と今後のあり方**」
 - 2005年7月30日(土)
 - 70名聴講
 - 講師 新倉 武一氏(財団法人日本交通公社 会長)

受託研究

- ・「**外国人観光客に関するグループインタビュー調査**」
 - 委託先 東急総合研究所

ニュースレター発行

- ・「**観光研究所だより**」
 - Vol.2 No.1(2005年6月30日発行)
 - Vol.2 No.2(2006年3月31日発行)



2006年度「旅行業講座」授業風景

所長の海外体験記

その2 ラオス国立大学 社会科学部観光学科 立教大学観光研究所長 小沢 健市

ラオスで唯一の国立大学である5年制のラオス国立大学社会科学部(the Faculty of Social Science of the National University of Laos)と本学観光学部との間で学部間協定の締結に向けた協議が現在進行中である。学部間協定を模索する過程において、2005年秋には社会科学部の中に観光学科(the Department of Tourism and Hotels)が新設された。観光学科の設立は数年前から計画されていたもので、その設置に当たり、主として社会科学部の先生方を対象に「観光学の基礎」を講義するために本学観光学部・観光研究所に所属する何人かの先生方が数回にわたりピエンチャン(ラオスの首都)に滞在した。私自身も、数回ラオス国立大学を訪れ、2回ほど国立大学の先生方に観光学および自分の専門の講義をした。

社会科学部の先生方は、一様に礼儀正しく、温和、親切

なまさにfriendlyの言葉がピッタリする方々であった。それにも増して私の記憶に残っているのは、先生方の学ぶことへの真摯な態度であった。

本学観光学部・観光研究所は、学部長稲垣勉先生をはじめ現在観光学研究科課程主任の村上和夫先生などが中心となり、ラオス国立大学社会科学部観光学科の設立に尽力され、カリキュラム作成に対する支援も行ってきた。

さらに、本学観光学部では観光学科・交流文化学科1年生を対象に本年度から早期体験プログラム「スタディーツアー」(学生諸君自身が「体験を通じて大学で学ぶ問題意識を作り出す」ことを目的に行われる観光学部独自の教育プログラム)が開始される予定である。その「スタディーツアー」デスティネーション先の一つとして、ラオスが取り上げられている。もちろん、ラオス国立大学への訪問もスケジュールに入っている。観光学部の学生諸君には私の老婆心かもしれないが、ラオス国立大学で学んでいる同年代の学生諸君との交流を通じて、また彼らの真摯に学ぶ姿から、「学ぶとはどういうことか」を改めて考えてほしいと思っている。

観光研究所だより

Vol.3 No.1

Summer 2006

CONTENTS

経営トップのビジネス論 1
平尾彰士(日本スターウッド・ホテル株式会社 会長)

Retrospect! 4
飯塚義昭(ザ・リッツ・カールトン大阪 代表取締役社長)

「ホスピタリティ・マネジメント講座」まもなく受付! 5

シリーズ 韓国最前線 6
劉亨淑

シリーズ 琉球便 7
曾山毅

2005年度観光研究所活動報告 8

所長の海外体験記 その2 8
小沢健市



発行:立教大学観光研究所
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL.03-3985-2577 FAX.03-3985-0279
E-mail : kanken@tr.rikkyo.ac.jp
URL : http://www.rikkyo.ne.jp/grp/kanken/

経営トップのビジネス論 第5回

日本スターウッド・ホテル株式会社 会長 **平尾 彰士 氏**



平尾 彰士 氏

1940年生まれ。1962年立教大学経済学部卒。米国ワシントン大学経営大学院修士課程修了。67年サンフランシスコ都ホテル(ウエスティン経営)で副総支配人。85年ウエスティン ホテル&リゾート アジア地区セールスオフィス副社長。01年よりスターウッドホテル&リゾート ワールドワイド日本・韓国・グアム地区統括社長。06年7月より日本スターウッド・ホテル(株)会長。香川県出身。



- 好きな言葉**
「中庸に行く」が好きですね。「鶏口と為るも牛後と為るなかれ」という言葉がありますが、私には真ん中に行くというのが合っています。
- 至福のとき**
最高の温泉に出会った時(湯の質が大事)。その温泉に入ってゆったりした時間を過ごす時ですね。
- これまでの仕事の中で思い出深いこと**
一番がカールソン氏(Q8に詳細)という素晴らしい方に出会ったことです。ホテルの副支配人時代(27歳、サンフランシスコ都ホテル勤務)に総支配人に仕事のことで「What shall we do?」と相談した時、「What shall I do?」だろうか?私は君をプロの人間として雇っている。自分で解決できないのなら君はいらない!」と一喝されたこと。その言葉でプロとしての独立心、決断力の大切さを学びました。
- 生まれ変わっても今の仕事を選みますか?**
選びます。ホテルには私のような中庸に行く人間が必要だと思いますから。
- 最近、社長が関心を持っていらっしゃることは?**
ス/を最近よく利用しています。温泉とどのような違いがあるか興味ありますね。
- 健康法**
ずっと続けていることは朝の10分間体操と竹踏み。竹は四国の実家に帰った時に自分で採ってきます。自然のエキスが出ているから体にいい。
- 趣味**
ゴルフ、ハンディは18。
- 尊敬する人**
故工藤・カールソン氏(コナイルト・エアライン社、ウェスタン・インターナショナルホテルズ社の取締役兼CEO)。カールソン氏という素晴らしい方に出会い、個人的にいろいろなお話を教えていただいた。彼と出会わなければ今の自分はない。今でも彼のご家族と大変親しくお付き合いさせていただいています。

世界95カ国に850以上のホテルとリゾートを所有、経営しているスターウッド ホテル&リゾート ワールドワイド(本社はニューヨーク州)。その日本法人である日本スターウッド・ホテル株式会社会長の平尾彰士氏に今後の経営方針などを伺った。

日本におけるホテル業界の現状と展望は如何ですか?

ホテル業界の景気は全体的には徐々に良い方向に行っていると思います。しかし、地方都市では苦心しています。日本の企業行動が東京中心になっているので、地方におけるホテルの業績回復には時間がかかるでしょう。

今後のホテル業界の展望については、バラ色だと思っています。国を挙げて観光振興に力を入れ始めている今だからこそ、欧米だけでなく、近くは中国や東南アジア、インドからも訪問客が増えるのは目に見えています。ホテル事業全体として当然景気は良くなってくるでしょう。今までにないタイプの宿泊を主にした宿泊特化型のホテルの需要は伸びます。

東京における外資系高級ホテルの相次ぐ開業についてどう思われますか?

東京では、マンダリン オリエンタル 東京(179室)から始まって今後オープンする予定のザ ペニンシュラ 東京(315室、07年夏開業予定)、ザ・リッツ・カールトン東京(250室、07年4月開業予定)まで、それぞれ小規模です。経済水準が同等のニューヨーク、ロンドン、パリには宿泊代金が5万円以上の高級ホテル客室数が2000~3000室あるのに比べ、東京にはそのレベルのホテル客室数が1200~1300室しかなく、まだまだ少ないです。

高級ホテルが今後もオープンすることで、そのようなホテルを利用する観光客は増えていくでしょうね。つまり、インバウンド(訪日外客誘致)にも高級ホテルが増えることは良い影響を与えると思います。

日本スターウッド・ホテルの業務・今後の方針をお聞かせ下さい。
 スターウッドの8つのブランド(表1)のうち、日本では、3つのブランド(表2)を展開しています。2~3年以内に東京か大阪にWホテルとセント レジスを造ることが目標です。運営だけではなく、将来は投資もパートナーを組んで積極的に展開していきたいと思ひます。

日本にはホテル需要があるし、景気の回復とも併せて、ホテル展開をしていく余地があると思ひます。競争力あるホテルの資料を常に比較して、業績の良いところと比べどこが悪いのかも検討しています。

同時にスターウッドのブランドをどのように高め、強化するかが今後の大きな課題で、全社を挙げて取り組んでいます。たとえばシェラトン、ウェスティンなどそれぞれのブランド性、特徴を持った雰囲気、人間の五感に訴えるものを新しい考えでどう生み出すか、サービスの質もそれぞれのホテルでどのように確立するかなどに力を注いでいます。

そして、スターウッドでは、数多くの不動産を持つことが一番という考えから脱却して、世界的なブランドを育てるライフスタイルを目的としたホテル会社を目指す、これからはブランドで世界に挑戦するといはっきりした目標を掲げました。「ブランド=約束」なのです。約束をしたならそれを守らなければ(応えなければ)リピーターは増えませんし、新しいお客様の開拓も望めません。

現在、うちでやっている顧客特典プログラムSPG¹⁾は8つのど

(表1)スターウッド ホテル&リゾート ワールドワイドの8ブランド

シェラトン	スターウッドの持つ全ホテルの半数以上を占め、アメリカ全土からグローバルに展開している高級ホテル。
フォーポイント・バイ・シェラトン	ビジネス中心。空港近くや市街中心地などに建つミッドクラスホテル。
セント レジス	最高級の6スターホテル、パトラーサービスが有名。
ラグジュアリー コレクション	ベニスのダニエリ、エクセルシオールなど世界最高級のホテル。
ル メリディアン	06年1月に合併完了。新たにスターウッドブランドに加入したシックなフレンチスタイルのホテルブランド。
W	ニューヨークを中心に世界18軒。04年にソウルにオープン。ヤングエグゼクティブ注目の新感覚を満たすホテル。
アロフト	アメリカ国内で先行させ、その後世界展開に取り組む。WホテルのDNAを持つ新ブランド。
ウェスティン	世界で約120軒展開している高級ホテル。ヘブリーベッドが大人気。最近女性客が増えている。

のブランドのホテルでも使えることが強みで、世界中の航空会社のマイレージとのタイアップも強化しています。最近わが社が設けたウェディングデザイナー制度も、それぞれのブランドの特徴をウェディングにも反映させていこうというやり方です。今までは各ホテルがバラバラでやっていたが、スターウッド系の国内12のホテル(表2)のいい所を互いに出し合い、勉強しシェアしていくようになりました。前述したように、アメリカの本社からは世界的なブランドを作ろうというキャンペーンについて毎日言われています。私は日本でも8つのブランドの知名度をもっと定着させ、これらを磨いていかなければいけないと思ひます。

アメリカの本社では、社員教育についてまず何を目標に掲げるかが大事であるかと考え、「全世界、どの民族にも共通する普遍的なものfive human truth(人間の真理)を磨く」としました。これを全従業員に確認させ、教育するという大変画期的な方法に本気で取り組み始めました。本社の教育が一番大事なものは何か、目標の順序がはっきりしているから私は大変良いと思ひます。



シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート

(表2)国内のスターウッド系ホテル

直営	シェラトンホテル札幌(札幌市)
	ウェスティンホテル東京(東京・恵比寿)
	シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル(千葉県浦安市)
	ウェスティン都ホテル京都(京都市)
FC	横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ(横浜市)
	ウェスティンナゴヤキャッスル(名古屋市)
	ウェスティンホテル大阪(大阪市)
	神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ(神戸市)
	ウェスティンホテル淡路(兵庫県東浦町)
	シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート(宮崎市)
	ホテルパシフィック東京(東京・品川)
	ホテル グランパシフィック メリディアン(東京・台場)

FC = franchise contract



ウェスティンホテル東京

ホテルの人材についてのお考えをお聞かせ下さい。

これからのホテルの支配人(GM)に求められるものはリーダーシップです。明確な目標を掲げ、それに向かって自らやれる人でなくてはなりません。そして、日頃私がGMに言うのは、一日どれだけWow!(感銘)を人に与えたか?ということです。つまり、お客様にも従業員にも感激させるようなことを率先してやるのが大切だと話しています。どんなに簡単なことでもいい。たとえば、ロビーで困っている人に声を掛ける、レストランのお客様のところにいって挨拶をする、従業員に「ありがとう。頑張っているね。」と一言感謝の気持ちを言う。従業員はGMに言われたらやる気になるものです。そういうことが毎日一回でもやれたら偉い。人との差はそういうところから出ると思ひます。

また、アメリカのホテルでは若くても実力があれば、どんどん仕事を任せられる。日本においてもそのような実力に応じた人事起用は必要です。

学生へのアドバイスをお願いいたします。

学生時代に出来る範囲で、人を助けるようなボランティア活動はやっておくといは思ひます。どのような仕事についてもきっとプラスになるでしょう。

そして語学。英語くらいは使えるようにしておくべきです。英語を使えれば情報量は確実に増えるし、グローバルな企業なら必ず必要です。あとは経理に詳しいこと、それとマーケティングを勉強している学生は強いと思ひます。

私は大学時代にはホテル業界で働くとは夢にも思ひませんでした。高校の時から教会へ通って生の英語に接し、大学時代はESSIに所属していました。ある時、ボランティアでロータリークラブの外国人客に東京を案内したことで、履歴書を欲しい



ウェスティンホテル・ヘブリーベッド

と言われて渡したことがいろいろな方との出会い、特にカーソン氏(尊敬する人の欄でお話したが)との出会いに結びつき、その後の私の生き方を大きく変えました。人生は出会い。出会いは、自分から求めていかなければつかめない。運を上手くつかむかどうかはその人の努力次第であり、やる気です。最近意欲がある学生が少ないのではないかと感じています。自分を磨いて大いに良い出会いをつかんでほしいと思ひます。

お薦めの本を紹介して下さい。

最近読んでおもしろかった本ですが、*Good to Great: Why Some Companies Make the Leap and Others Don't* Jim Collins著

内容は、世界的に有名な企業の中で成功している企業の共通点は何かをアメリカの大学院生が調べた結果をまとめたものです。共通していることは正しい人を正しいポジションに置く、間違った人を同じバスに乗せないということです。つまり、成功している企業に共通する基本は適材適所です。学生にも機会があれば是非読んでほしい本です。

本日はお忙しいところありがとうございました。
 (インタビュー:2006年5月16日)



インタビュー後、平尾会長を囲んで

註1)SPG Starwood Preferred Guest スターウッド系のホテルポイントプログラムのごと(入会金、年会費無料)。貯まったポイントで無料宿泊や部屋のアップグレード、宿泊費の割引などが可能。また約30社の提携航空会社のマイレージへ移行することも可能。

RETROSPECT!

Vol.5

株式会社 阪神ホテルシステムズ
(ザ・リッツ・カールトン大阪)
代表取締役社長 **飯塚 義昭**

私の手元にある「1965年3月1日現在、立教大学観光・ホテル講座修了者・運営委員名簿」に目を通して見ると、1949年(昭和24年)第一回修了生から始まるリストには卒業から今日までの40数年間、公私にわたりお世話いただいた諸先生・諸先輩のお名前を随所に見ることができ、あらためて講座関係の方々のご活躍、ご努力の重みを感じる次第でございます。私が修了した「第17回(昭和40年)観光・ホテル講座」の修了式は東京ヒルトンホテルにて行われたことなど、当時から観光・ホテル業界と大学との強い絆を垣間見ることができます。講座には立教の学生のみならず広く他大学生やホテルに勤務しながら講義に出席された方など、教える側も学ぶ側も多彩なメンバーで構成され、将来の観光・ホテル業界を担う人材を「産学協同」で育てようという並々ならぬ熱意が感じられ、立教の「観光・ホテル講座」がいかにユニークで魅力ある存在であったかが窺えます。

当時の講座では、「ホテル施設見学会」や「夏のホテル実習」など課外授業があり、私自身も1963年7月に芦ノ湖畔の「箱根ホテル」にて実習を経験させていただきました。このホテルは1923年開業の客室50室の歴史と風格を兼ね備えた富士屋ホテルチェーンの一つで、早朝の湖畔の清掃作業から始まり、主食堂のウエイター、営業時間合間の食堂床のポリッシャーかけ、深夜のPBX(Private Brunch Exchange電話交換室)の補助などかなり広範な仕事を与えられましたが、唯一フロント業務は石川実習生リーダーのみが許された聖域でもありました。主食堂ではマネージャーが毎日手刷りのメニューをつくるなど良き時代の伝統を守りつつ家族的な運営がなされていました。夏季の宿泊者は殆ど毎年顔なじみの長期滞在客で占められ、洋画界の巨匠、歌劇団創始者、いけばなの創流者など、各界名士の人となりに直に接することができました。その中で休日には手こぎボートで芦ノ湖一周(所要時間5時間40分)を楽しみました。また、実習期間中には大学から指導担当の先生(当時の社会

学部 林 伸郎助教授)がホテルに来館されて受入状況の把握や学生の指導に携われました。

多士済々の講師の先生、なかでも長年にわたり日本交通公社「旅」の編集長を務められた戸塚文子先生のお話を覚えています。バリバリのキャリアウーマンでおられた戸塚先生のお母様は大変サッパリした方で、娘が遅く帰っても全然気にする様子がなかったこと、大の野球好きで神宮球場で投手の名前を大声で叫びながら応援するような大変元氣溢れるお母様の影響を受けたお話を興味深くお聞きしたのが昨日の事のように。また、その戸塚先生を「個人的にも私が大変お世話になっている方で…」とご紹介され、「お世話」の意味のミスマッチで学生席に忍び笑いを誘った講座運営委員で社会学部教務課の吉田孝課長の実直なお人柄が40年以上経った今も鮮明に脳裏に残っております。

多くの方々の熱意と思い入れが今日まで脈々と引き継がれ、ホスピタリティ産業を支えるユニークな学舎として「立教」が内外から評価されていることは大変嬉しい限りです。私どものホテル「ザ・リッツ・カールトン大阪」も、従業員が生まれながらの資質を見つけ出し、開花させ、「紳士淑女をおもてなしする私どもも紳士淑女です」のモットーを実現し、お客様に「思い出に残るご滞在」と「心のこもったおもてなしと感動」を体験していただけるホテルを目指しております。しかし、その原点は「神と国のために」という立教建学の精神であり、「諸君は立教を選んだ、立教は諸君を選んだ」から始まる学生と大学の出会いの通り、ホテル事業との巡り合わせを自らの「天恵」として今日に至っております。

今回思いがけなく、思い出を語る機会を与えられたことをここにあらためて感謝申し上げる次第でございます。



1963年「箱根ホテルの実習」右から二人目が本人 ホテル正面玄関にて

飯塚 義昭(いづか よしあき)
1965年立教大学社会学部卒。1965年阪神電気鉄道(株)入社。1966年(株)ホテル阪神出向、同社接客課長、営業企画室部長、経理部長を歴任。1983年阪神電気鉄道(株)に復職。
1992年(株)阪神ホテルシステムズ(ザ・リッツ・カールトン大阪)常務取締役、専務取締役。2000年より代表取締役社長。2005年より流通科学大学講師も兼務。著書は古貞典 編著「サービスマネジメント概論」共著(学文社 2006年)

「ホスピタリティ・マネジメント講座」受講受付始まる

2006年度「ホスピタリティ・マネジメント講座」の受講申込受付が7月1日(土)から始まりました。本学の在学生・卒業生はもとより、高校卒業以上の資格をお持ちの方ならどなたでも受講できます。宿泊・外食産業などホスピタリティ産業の理論から最近

の動向まで業界を代表する講師が講義形式で授業を進めます。他に例を見ない素晴らしい講師陣、内容で好評です。

希望者は詳しいパンフレットをお送りいたします。問い合わせは立教大学観光研究所まで(受講申込締切:7/20)

立教大学観光研究所(Tel: 03-3985-2577 Fax: 03-3985-0279 E-mail: kanken@tr.rikkyo.ac.jp)

月	日	曜日	火・木曜日 18:15 ~ 19:45 7号館 7101教室		講 師
			土曜日 14:00 ~ 15:30 5号館 5322教室		
9月	21	木	オリエンテーション	立教大学観光学部教授	岡本 伸之氏
	26	火	リゾート事業の現状と展望	株式会社星野リゾート 代表取締役社長	星野 佳路氏
	28	木	ホテルマーケティング総論	立教大学観光学部特任教授	甲田 浩氏
	30	土	ホテル事業展開論	ホテルオークラ 代表取締役社長	松井 幹雄氏
10月	3	火	現代ホテル経営の課題	ロイヤルパークホテル 取締役社長	中村 裕氏
	5	木	サービス・マーケティングの発想	明治大学 大学院グローバル・ビジネス研究科教授	近藤 隆雄氏
	7	土	ホテルの人的資源管理論 ¹	流通科学大学客員教授	吉田 方矩氏
	7	土	ホテルの人的資源管理論 ² (15:40~17:10)	流通科学大学客員教授	吉田 方矩氏
	12	木	外資系ホテルの動向と経営戦略	桜美林大学名誉教授	山口 祐司氏
	14	土	旅館の接客訓練	オフィスヴァルト代表 サービスコンサルタント	福島 規子氏
	17	火	ホテルにおけるコンピューターシステム	株式会社タップ 代表取締役社長	林 悦男氏
	19	木	ホテルの予約情報システム	株式会社タップ 代表取締役社長	林 悦男氏
	21	土	旅館経営の課題と展望	社団法人国際観光旅館連盟 会長	佐藤 義正氏
	24	火	国際ホテル経営論	日本スターウッド・ホテル株式会社 会長	平尾 彰士氏
	26	木	由布院の観光地づくりと旅館経営	由布院 玉の湯 代表取締役社長	桑野 和泉氏
	28	土	ホテルの顧客情報とISO	芝パークホテル 代表取締役社長	石原 直氏
	31	火	購買管理とFBC	芝パークホテル 代表取締役社長	石原 直氏
	11月	9	木	ホテル管理会計~その功罪を考える	(株)グローバルマネジメントディレクションズ ホスピタリティグループディレクター
11		土	ホテル資産投資の概要	ジョーンズラングラスールホテルズ東京オフィス エグゼクティブ・ヴァイス・プレジデント	沢柳 知彦氏
14		火	ホテルのレベニュー・マネジメント	(株)JALホテルズ 営業本部副本部長兼マーケティング戦略部長	藤崎 齊氏
16		木	ホテル旅館法規 ¹	風間・畑法律事務所 弁護士	畑 敬氏
21		火	ホテル旅館法規 ²	風間・畑法律事務所 弁護士	畑 敬氏
25		土	外食産業の経営システム	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授	王 利彰氏
28		火	外食産業の新業態	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科特任教授	王 利彰氏
30		木	シティホテルの商品計画とセールスマーケティング ¹	ホテルバシフィック東京 取締役副総支配人 総支配人室長	玉井 和博氏
12月	2	土	シティホテルの商品計画とセールスマーケティング ²	ホテルバシフィック東京 取締役副総支配人 総支配人室長	玉井 和博氏
	5	火	ホテルの新業態と開発	東日本旅客鉄道(株)事業創造本部事業推進部門ホテル事業グループ	大見山俊雄氏
	7	木	ホスピタリティ産業の環境経営	川村学園女子大学人間文化学部観光文化学科専任講師	丹治 朋子氏
	9	土	宿泊特化型ホテルの経営戦略	株式会社 エム・エイチ・ディベロップメント 代表取締役	梶川 文男氏
	12	火	総支配人の職務	前フォーシーズンズホテル椿山荘 東京 総支配人	塩島 賢次氏
	14	木	ホテルの社会的責任	社団法人日本ホテル協会 事務局長	満野順一郎氏
	16	土	ホテル経営とデザイン	株式会社デザインの森 代表取締役	森 一朗氏
	19	火	隣接産業から見たホスピタリティ産業の課題	株式会社毎日コムネット 代表取締役社長	伊藤 守氏
21	木	ホスピタリティ産業の課題と展望	立教大学観光学部教授	岡本 伸之氏	

シリーズ

韓国最勲線 ~その五~

東義大学校商経大学
ホテル・コンベンション経営学専攻専任講師

劉 亨淑

ハインス・ワード 烈風
하인즈 워드 열풍

2006年アメリカンフットボールのプロリーグ(NFL: National Football League)のMVP、ハインス・ワード(Hines Ward)選手が韓国を訪問し、“ハインス・ワード烈風”が吹いている。

韓国人とアメリカ人を両親に持つワード選手は、自分自身をKoreanと言っているが、アメリカの新聞では、Korean African Americanと表現している。また、自分が黒人と韓国人の文化的な長所を受け継いでいることがとても幸いだったとし、アメリカと韓国社会に貢献したいと述べている。

4月、ハインス・ワード選手は彼の母との約束であった“母国訪問”を実行し、自分が韓国人であることを誇りに思っていると述べ、母と一緒に韓国で多様な行事に参加し、ソウル市名誉市民に選ばれた。また、韓国の混血児を助ける目的で財団を設立するために再訪問すると約束していたため、再び5月、家族と一緒に韓国を訪問した。「混血児童を助けるための財団」はハインス・ワード側のHHF(Helping Hands Foundation)とHolt児童福祉会(Holt Children's, Inc.)が共同運営し、韓国で設立することに合意した。財団の運営基金(220万ドル)はワード選手自らの100万ドル出資と、韓国国内の企業の120万ドル後援資金により調達された。

世界でチャイナタウンが定着できない国の一つであるとか、血統と肌の色が異なる人々が共に生活することが難しい社会であると言われることは韓国社会の「閉鎖性」を指摘していることである。昔から韓国は単一民族ということ、純血主義を重視する社会であったため、韓国で生まれた混血の人々、国内に住居する外国人労働者などの他の人種と血統に寛大ではなかった。ワード選手の母も、閉鎖された韓国社会で息子を一人で育てることができず、彼が2歳の時に親子で韓国を離れ、アメリカへの移住を実行したのである。

最近、韓国の混血人口は3万5千人(全体人口の0.73%)に達しているし、2020年には167万名まで増加すると推算されている。また、農村の独身男性を中心とした国際結婚が急速に増加し(2005年100組中13.6組が国際結婚)、韓国は多民族社会になる趨勢にあり、「コシアン(Kosian)」²や「アメラシアン(Amerasian)」³という造語も使われている。混血の人々の22%が失業状態で、働いている人々のうち98%が単純労働に就いているという厳しい現実である。

ワード選手の韓国訪問は、混血の人に対する韓国人の認識を大きく変える機会を与えた。彼の訪問中、マスコミは連日ハインス・ワード選手特集を放送し、韓国社会で除外されてきた国内の混血の人々と外国人労働者問題などに対する関心、また、

彼らが人種差別問題に対し共に悩む生き方などを訴えた。

しかし、アメリカで成功したハインス・ワーズ選手の功績は、韓国社会の閉鎖性の問題に関する社会的関心が一瞬高まっただけの一過性の話題に終わるのではなく、韓国社会全般に存在する問題点を今後も継続して考え、根本的に解決しようとする意識が高まることを国民は願っているとと思う。

ワード選手が成功者で、「自慢できる韓国人」と称えられることは素晴らしいことだが、韓国で生まれている一般の混血の人々も偏見なしで韓国人と認められるような社会になって欲しい。

そして、逆境の中、ワード選手を他国で一人で一生懸命育て、教育した母(キン・ヨンヒ氏)の深い愛情と努力に心から拍手を送りたいと思う。

註1)1955年朝鮮戦争直後設立され、今年で創立51周年。創立当初は戦争孤児が多く、彼らに新しい家庭を見つけることが目標の団体であったが、近年は孤児・混血児など児童問題の予防から養子縁組・託児事業などの事後処理までの各種児童福祉法人。世界各国の機関・篤志家・養父母などの後援を受けて運営されている。

註2)KoreaとAsianの合成語。韓国に住居するアジア人という本来の意味が変質され、アジア出身の移民者(父)と韓国人(母)の間で生まれた混血の人を指す。

註3)アメリカ人(父)と韓国人(母)の間で生まれた混血の人を指す。

ハインス・ワード選手【プロフィール】

生年月日：1976年3月8日
身長：183cm
体重：90kg
出身大学：ジョージア大学
リーグ経歴：ピッツバーグ・スティーラーズ4年
ポジション：ワイドレシーパー
(クォーターバックが投げるパスを受け取る役)
個人通算記録：127試合出場574レシーブ(52タッチダウン)7300ヤード前進という記録を打ち立てた。

2006年2月6日、デトロイトのフォード・フィールドで開かれた第40回スーパーボールで勝負を決定づけるタッチダウンを含み、2度の決定的なレシーブを記録し、チームを21対10の勝利に導いた。
(スティーラーズ 21 10シーホークス)

劉 亨淑(ゆう ひょんすく)

韓国・東亜大学校自然科学大学物理学科卒業。立教大学大学院観光学研究科博士課程後期課程修了 観光学博士。2002年4月～2003年3月立教大学観光学部助手。2003年4月～2004年3月立教大学観光研究所学術研究員。2004年3月～2006年2月韓国・東明情報大学校ホテル経営学専攻専任講師を経て2006年3月より東義大学校商経大学ホテル・コンベンション経営学専任講師。

シリーズ

琉球便 ~第五報~

名桜大学国際学部観光産業学科助教授

曾山 毅

三線のはなし

夏が近づいてくると、各所でエイサーの練習が始まり、私が住むアパートにも夕暮れ時になるとどこからともなく太鼓や三線(サンシン)の音が流れてきます。名護市内を散歩していると三線の音が民家から漏れてくることもありますし、そんな時は三線が沖縄の日常生活に溶け込んでいるのを感じます。しかし、名桜大学の学生にきいてみると、三線ができる学生はそれほど多くありません。彼らの小中高時代にクラスに三線ができる生徒が何人いたかを尋ねると、多くても一人か二人という話です。やはり、若者の間ではこの「伝統楽器」も急速に弾き手を減らしているのでしょうか。

三線は本土の三味線と同系の楽器ですが、三味線が猫皮や犬皮を張るのに対して、三線はニシキヘビの皮を使い、独特な爪あるいはそのまますでに弾きます。そのほかにも細部に違いがあり、こうした三線の構造が本土の三味線とは違う独特な音色を生み出しているのでしょう。本土でときどき耳にする蛇皮線という呼称は沖縄では使いません。三線のことを三味線と呼ぶ沖縄人はたくさんいますが、沖縄口(ウチナーグチ)でサンシンと言うのが正しいそうです。三線は今日では様々なジャンルの音楽で使われ、いろいろな楽器とのコラボレーションも楽しまれていますが、本来は歌謡の伴奏楽器で、古典と民謡に大きく分かれます。どちらかというと古典は高尚で教養的、民謡は庶民的というイメージがあるようです。本土では歌い手と三味線の弾き手は異なることがありますが、沖縄では古典、民謡ともに弾き手が同時に歌うスタイルが一般的です。

実は名桜大学には三線サークルがあります。観光産業学科3年生の上間綾乃さんが呼びかけて、昨年4月に創部した若いサークルです。部員は15名ほどで本土出身の学生が多く、部長の上間さん以外はほぼ全員が初心者です。上間さんが三線サークルを作ったのは、沖縄民謡のサークルを作って、ぜひ沖縄の三線文化を大学から発信したいという思いがあったからだと思います。部員たちは彼女から三線の演奏法を習得し、保育園や老人ホームなどで演奏することを当面の目標に活動していると

のことです。上間綾乃さんは小学校2年生の頃から三線を習い始め、すでに琉球国民謡協会教師免許という教授資格を持っています。彼女の音楽活動は沖縄民謡や三線教授にとどまらず、ウチナーポップスのライブ活動を沖縄県内、県外で行い、最近『願い星』という初CDを発表したばかりです。

今年の4月に三線が教員志望者たちを震撼とさせた出来事がありました。沖縄県教育委員会が、来年度の公立小中高校の教員採用2次試験に、三線、沖縄空手、琉球舞踊を加えると

突然発表したからです。1次試験合格者はどれか一つを選択し、三線ならば本島北部の恋歌「安波節」を演奏しなければならないのです。県内高等教育機関の教職課程で、三線、沖縄空手、琉球舞踊が積極的に学ばれているということはありません。事前に大学等との間で十分な協議もなく、試験のわずか4カ月先の発表だったために、大学等からの反発は当然激しく、県教委はわずか5日後に実施を見送ることになりました。

三線が弾ける若者が少ないということを書きました。教育委員会の意図は、三線が弾けるような「沖縄の自然・歴史・文化に誇りを持つ教員」を養成し、沖縄の伝統芸能、文化を学校で傳承させたいということでしょう。しかし、沖縄の「伝統文化」を三線、沖縄空手、琉球舞踊に代表させることは少し無理な話です。沖縄が置かれている政治や文化の状況がどのようなものであれ、「伝統文化」をこうした形で沖縄人自らに強要するのはとてもおかしな話です。こうした意味からも、上間綾乃さんや名桜大学三線サークルのような、「伝統」に対して新鮮な感覚で取り組む若い人たちに熱いエールを送りたいと思います。



三線(写真・上)と三線をひく上間綾乃さん(写真・下)

曾山 毅(そやま たけし)

慶應義塾大学経済学部卒、立教大学大学院社会学研究科応用社会学専攻博士課程後期課程退学 観光学博士。1998年4月～2002年3月立教大学観光学部助手、2002年4月～2004年3月立教大学観光研究所学術研究員を経て2004年4月より名桜大学国際学部観光産業学科助教授。